防災功労で総理大臣表彰

氷見・仏生寺地域協が報告

氷見市の仏生寺地域づくり協議会が内閣府の防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞した。2月に消防庁の「防災まちづくり大賞」消防庁長官賞に選ばれたのに続くダブル受賞で、関係者が19日、市役所を訪れ、林正之市長に喜びを報告した。

表彰は防災体制の整備部門で、全国5団体に選ばれた。高木良治会長は「大変な名誉で喜ばしい。皆さんの協力のおかげです」と語った。

協議会は家族構成や緊急連絡先、かかりつけ医などを記入した用紙を筒に入れて冷蔵庫に保管する「いのちのバトン・避難支援シート台帳」作成を推進。15日に東京の首相官邸で行われた表彰式に出席した屋敷宗一顧問は「作成率が95％と非常に高いことが評価を受けた」と分析した。

高木会長は先日、近所で急病人が発生した際にも、いのちのバトンが役立ったと紹介し、活動の継続に意欲を語った。

林市長は「普段の体制の整備がまさかの時の役に立つ。今後とも防災活動を推進してほしい」と祝福した。

表彰状を披露する高木会長（左）と屋敷顧問＝氷見市役所

「落ちない」荒間神明社

迷わず願いかなえて

小矢部、案内看板設置

2021年8月の大雨による地滑りで本殿が被災した荒間神明社（小矢部市荒間）の誘導案内看板が17日、町内入り口の市道沿いに設置された。本殿が間一髪で崩落を免れたため「落ちない神社」と評判になり、昨春から参拝客が増えてきたものの、道が分からずに訪問を断念する人がいることを考慮した。

看板は神明社の宮司を兼務する福町神明宮の大峯智之宮司と地元の荒間町内会が協力して立てた。大きさは縦約2メートル、横約60センチで、